

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター
住所：名古屋市中区三の丸3-2-1
愛知県東大手庁舎1階
TEL：052-954-6722
FAX：052-954-6993



《めぐりあい 芋ほりと芋煮会 2020》



《福島交流相談会》



《濱田農園農作業体験交流会》



オンライン・あおぞらカフェ「手浴」



新型コロナウイルス感染症

厳重警戒

県民・事業者の皆様には、以下の点についてお願いします。

- ① 不要不急の行動自粛
- ② 県をまたぐ不要不急の移動自粛
- ③ 初詣等行事の対策徹底
- ④ 時短とガイドラインの徹底
- ⑤ 高齢者等への拡大防止
- ⑥ 感染防止対策の徹底

《もくじ》

- P1. 写真:各交流会、他
- P2. めぐりあい交流会、他
- P3. あおぞらカフェ、他
- P4. あま市絵手紙贈呈式、イベント情報、他

← ↓ 愛知県ホームページより

*「厳重警戒」よりステージが変わった場合、それに合わせたご対応をお願いします (2020.12.24 時点)。

愛知県・新型コロナウイルス感染症「県民相談総合窓口」(コールセンター)

電話番号：052-954-7453

対応時間：午前9時から午後5時まで

(土・日・祝日を含む毎日)

※ただし、12/29(火)から1/3(日)を除く

新型コロナウイルス感染症が心配な時の看護師による一般相談窓口 (健康相談)

愛知県感染症対策局感染症対策課

電話番号：052-954-6272 (ダイヤルイン)

対応時間：午前9時から午後5時まで

(土・日・祝日も実施)

めぐりあい いもほりと芋煮会 2020

11/22(日) 参加者：5世帯 14名



今回のめぐりあい交流会（自主グループめぐりあいの会主催）は、刈谷市にある南山ワイズ農園で開催されました。この農園の持ち主はワイズメンズクラブで、YMCAや名古屋キリスト教社会館に関連する組織です。これらの団体は、熱心な被災者支援の団体です。

芋ほりが終わったら、芋煮鍋、ピザパイ等と美味しい料理を頂きました。

参加する避難者の方は、今回本当に久しぶりの再会でした。会って他愛もないおしゃべりが延々と続くのが、どれ

ほど彼らを支えてきたか。今年ほどそれが感じられることはないと思いました。

昼前に次々と集まったあの人もこの家族も「久しぶり！」と声を掛け合って、笑顔の対面が続きました。「大きくなったね」と、コロナ禍で会わなかった期間に驚くほど大きくなった子がいっぱい。「あの頃は走り回っていたね」と語り合う母親たちの姿に、私もとても心温まる時間を共有させて頂きました。（編集委員 瀧川）



福島交流相談会

11/22(日)参加者：4世帯 8名



福島市のコラッセふくしまで行われた「福島交流相談会」(レスキューストックヤード・ふくしま支援室主催)は、避難者の皆さんにとって貴重な里帰りの機会となっています。愛知県だけでなく、岐阜県や三重県に避難されている方も一緒に、それぞれの情報交換も行われ

ていました。

福島を担当者による状況説明や地域のNPO団体『手づくりマルシェ』の方による活動報告、相談会に参加している方もありました。その後のお楽しみとしてNHK朝ドラ「エール」のゆかりの地の街歩きもあり、ドラマの主人公古関裕而記念館などを見学しました。道を歩きながら、「あ、ここ懐かしい!」「避難前にこの近くに住んでいたよ」という声が、参加者の方々から上がっていました。故郷の家族や友人に出会ったり、しばし故郷を懐かしみ、故郷のなまりで話したりという時間を過ごされたようです。



濱田農園農作業体験交流会 芋掘り&大豆の収穫

11/29(日) 参加者：7世帯 14名



あたたかく絶好の芋掘り日和、濱田農園でさつまいも掘り、さといも掘り等の農作業体験交流会を行いました。子どもたちもスコップを手に芋掘りに挑戦し、大きなさつまいもを掘りだしました。重



い芋運びも一生懸命頑張りました。広々とした野外の畑での交流会であっても、マスク着用などコロナ対策には気を付けて実施しました。最後は6月に蒔いた大豆の脱穀作業をしながら、焚火で焼き芋も。慣れない作業で、皆さん、お疲れさまでした。

オンライン・あおぞらカフェ「ハーブで手浴」

12/9(水) オンライン参加者:4世帯

＊ハーブのカレンデュラ(マリーゴールド 和名キンセンカ)の「手浴(てよく)」という方法を、アロマハンドトリートメントでおなじみの鈴村ユカリさん(避難元:福島県富岡町)に教えてもらいました。

＊カレンデュラ(乾燥)の花を洗面器に入れ(5g)、熱湯を注ぎ(やけどにご注意!)、オレンジ色の花が開いたら(あれば好みの精油を数滴垂らす)、水を注いで適温(42℃ぐらい)にし、手首まで浸ける、というものです。

＊あらかじめ申込者に材料をお送りしてあるので、オンラインの画面の向こうで、参加者が一緒にやっている様子がうかがえ、一体感が感じられます。

「初めは手がポカポカし、だんだん体の中心も温かくなり、血管が元気になるのを実感しました」(Y.Yさん)、「途中で友達に来て、ナイスタイミングでした」(Kさん)、「初めてのチャレンジ、やってみてよかったです。残りの材料で、子どもたちと一緒にやります!」(mさん)というご感想もいただきました。今回オンラインでできなかった方も

同時刻にやっていただき、「やったよ!気持ちよかったよ」(Iさん)というメールが直ぐにきました。

＊また1月の企画を準備中です。ぜひご参加を!(チラシ、イベント情報欄をご参照ください)



オンラインについて: コロナ禍の最近では、オンラインによる交流会が身近になってきました。愛知県被災者支援センターの関係するオンライン交流会としても、今回で4回目となり、少しずつ要領がわかってきました。屋内で集まることが難しい中、パソコンやスマホの画面を通してでも互いの顔が見えて、声が聞ける便利なツールです。「やったことないので…」「難しそう…」という方も、この機会にぜひチャレンジしてみてください(操作の仕方については、センターのスタッフがサポートします。やってみたら意外と簡単、という声も聞こえます)。

あま市・「愛知県に避難されている方に寒中見舞いの絵手紙を送ろう」贈呈式 12/17(木)

あま市内 17 校の小中学校の生徒の皆さんが取組んでくださっている絵手紙の贈呈式が、愛知県被災者支援センターでありました。例年は、避難者の方があま市を訪れ、直接生徒会の代表から絵手紙を受け取っていました。今年はコロナ禍で集まることができず、愛知県被災者支援センターにあま市小中学校人権教育研究会の河村幸恵会長(あま市立伊福小学校長)と加藤裕明研究主任(同甚目寺中学校人権主任)のお二人が来所され、避難者を代表して伊藤廣昭・敦子夫妻(名古屋市南区 避難元:福島県南相馬市小高区)が、3,819 枚の絵手紙の詰まった重い箱を受け取ってくださいました。



その後の懇談の席で伊藤さんは、

まもなく 10 年になる避難生活の思いを時折言葉を詰まらせながら「地震・津波・原発事故のトリプル災害だった。311 を忘れないで欲しい」などと語り、加藤先生たちも「この絵手紙を送る活動を通して、生徒たちの心を育てる貴重な機会をいただいています」とその取り組みの意味を話されました。またこの日出席できなかった工藤福一さん(名古屋市南区)と堀内光子さん(豊橋市)が用意されていたメッセージをスタッフが代読させていただきました。

これから配布のための作業を行い、新年 1 月半ばごろに皆さんにお届けできることと思います。どうぞお楽しみに。



【イベント情報】 詳しくは定期便に同封のチラシをご覧ください。

開催日	● イベント名	内容 (主催など)	会場
2021 年 1 月 13 日 (水) 11:00~11:45	あおぞらカフェ 「エプソムソルトの足湯」	「エプソムソルトの足湯」で、体の芯から温まります。共催:支援センター・あおぞらカフェ 実行委員	オンライン 開催

《編集後記》

- ・よく燃える 薪ストーブを 背に座り 短歌と読書 伯母沢(*)の夜 (T.H) (*豊田市^{おぼざわ}伯母沢町)
- ・コロナウイルスはほんのちょっとした油断をも見逃さない。念には念を入れて気をつけましょう!(T.K)